

大村先生の人となりうかがえる資料

当館は、山梨で生まれ育った大村智先生のノーベル賞受賞を讃え、平成28年5月「山梨市立大村記念図書館」と改称、令和2年6月には先生を名誉館長にお迎えしました。

改称を機に「大村智博士コーナー」を設置し、先生の著書や関連書籍・雑誌を収集。学生時代の手書きノートや山梨大学の卒論レプリカも展示しています。また、平成29年3月からご自宅の大量の本を寄贈いただいております。ご自身の書き込みや読みたい本の目印等そのままに当館蔵書とし、化学関係書籍の他、経済に関する本、美術関連資料や歴史小説など様々なジャンルの本をコーナーに揃えています。それら約4,400冊は貸出しもしていますので、ぜひ手に取ってご覧ください。

(山梨市立大村記念図書館 加藤博純)

山梨市立大村記念図書館編



大村智博士コーナー

先生の手書きノートと卒論レプリカの展示



図書館ボランティアの

日常から



流れる音楽に合わせて体を動かします。

Vol.7 外国語絵本の読み聞かせ

今年度、外国語読み聞かせ分野は協力員7名で活動しています。読み聞かせは様々な言語で行われます。6月6日に開催した読み聞かせ会では、英語とイタリア語で3冊の絵本を読み、英語の歌に合わせて参加者の皆さんと体を動かしました。新型コロナウイルスの影響で前回から1年半近く空いたため、協力員の方は久しぶりに子どもたちの前に立てたことを喜んでいました。

(子ども読書推進担当 有野)

絵本はたくさんの国の中から吟味してセレクト。

Information

2021年度これからのイベント

10月17日(日) 中高生ジョイントコンサート inかいぶらり

県内の中学生・高校生による吹奏楽、アンサンブル、アカペラ等のコンサートです。日頃の練習成果をぜひ身近で味わってください。



1月28日(金) かいぶらりシチズンカレッジ「認知症セミナー」

認知症の基礎知識や認知症の方への対応を学び、地域での活躍が期待される「認知症サポーター」の養成講座を実施します。



※新型コロナウイルス感染症の状況により、延期または中止となる場合があります。

副館長 河手由美香のひとこと箋

高校生の図書館入門

この夏も18人の高校生が、インターンシップを通して「図書館で働く」体験をしました。資料の収集・保存・継承・提供、場の提供等を通じて、人と情報、人と人をつなぐ図書館の役割について考えました。この経験が彼らの未来に光を灯すことを願います。

所蔵本のポップを書く研修も行いました。



YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

山梨県立図書館報
150
2021.10.1 発行

やまなしゆかりの貴重資料

『41人の嵐』
1982年台風10号の一記録』
桂木優 著 山梨日日新聞社



山梨県立図書館では、山梨県に関する資料を地域資料として収集提供しています。武田氏に関するもの、伝統工芸に関するものなど貸出が多い資料は数多くありますが、今回は隠れた人気資料を紹介しましょう。

その本は、南アルプスの北岳と仙丈ヶ岳に挟まれた野呂川上流標高2000mにある両俣小屋の管理人が実体験を記した『41人の嵐』です。1982(昭和57)年8月1日、中部山岳地帯を直撃した大型台風10号。1日夜半、濁流が両俣を襲います。その時、小屋には4パーティーと管理人(著者)の25人、テント場に2パーティー16人がいました。小屋の25人は裏山に駆け登り、テント場の16人は尾根に逃れ、暴風雨に耐え一夜を明かします。その後、16人は、仙丈ヶ岳を越えたその先にある北沢峠をめざし必死の脱出を行います。傾いた小屋に戻った25人は再び風雨と鉄砲水に襲われ、管理人は北沢峠をめざし脱出することを決断。ろくな装備もなく食料もわずかな25人は3日朝、風雨の中出発します。この41人の記録は、団結の力と大自然の恐ろしさを教えてくれます。大災害が人ごとでない昨今、著者の「最も恐ろしいのは私たちの油断である」という言葉が重く響きます。この本は、毎年複数の県外図書館から貸出依頼が来る、知る人ぞ知る本なのです。

地域資料には、山梨県や県内自治体の編集・発行資料、山梨県人が著した資料も含まれ、全て網羅的に収集しています。貴重な地域資料を、一人でも多くの方に読んでいただけるよう、今後も収集に努めていきます。

(調査サービス担当 土橋)

小屋番はそら恐ろしくなってきた。大自然が人間をいじめさいなんで楽しんでるように思えてきた。(中略) 大自然はいけにえを求めするために鉄砲水を繰り出しているようである。

本と人をつなぐ

第7回 資料選定委員会



一点ずつ本をチェック。小委員会では5人のメンバーが意見を出し合って決めています。

県立図書館では、県民の「知りたい」という思いに役立つ本等を収集しています。

様々な分野の資料を、どのようなバランスで揃えるか検討しているのが資料選定委員会です。収集方針に沿って、利用ニーズや蔵書の構成等を考慮し、重点的に収集する分野等を決定しています。

また小委員会では、最新の出版動向や雑誌・新聞、パンフレット等からの出版情報を集め、毎週出版される1000冊近い本の中から選定しています。

その本を必要としている人の手元に届くことを願って、日々の選定を行っています。

(資料担当 山本)

レファレンス・サービスの世界

図書館の所蔵資料などを使って、調べもののお手伝いをするレファレンス(調査相談)・サービス。聞き慣れない言葉かもしれませんが、図書館の重要な業務のひとつです。

図書館に寄せられるレファレンスは実に多岐にわたります。「武田信玄はどんな食事をしていた?」「甲斐犬について知りたい」といった山梨県に関するもの、「鮭の遡上に関するデータを探している」「がん患者の数を知りたい」といった専門的な内容など、司書は日々、さまざまな質問と格闘しています。また、「木は冬に葉っぱを落としたあと生きていられるのはなぜ?」といった子どもからの可愛い疑問にも全力で回答を探します。求める回答や資料にたどり着けば私たち司書もスッキリ! 意外な回答が見つかって目からウロコ、といったことも。とても奥が深い世界です。

日常生活での小さな疑問、仕事や研究に必要な統計や論文の調査など、調べものに困ったときはぜひ、図書館のレファレンス・サービスをご利用ください。(調査サービス担当 高木)



県図書スタッフの思い出に残るレファレンス

多岐にわたる利用者の方からのレファレンスのうち、山梨の特産品にまつわる印象深い質問を2つご紹介します。



Q 戦時中、ワインから採れる酒石酸がレーダーに使われたと聞いたのですが…

A ワインで有名な甲州市勝沼町の『勝沼町誌』(勝沼町1962年)や『山梨のワイン発達史』(上野晴朗著 勝沼町1977年)などのワイン関連資料、国税庁webサイト内にある税の歴史クイズ「戦時中のワイン造りの奨励」(2021.7.16確認)に、酒石酸について書かれていました。酒石酸から作られるロッシェル塩は、対潜水艦用のソナー(音波によって物体を探知する装置)に使用されました。「ブドウは兵器だ」の標語のもと、全国のぶどう酒醸造業者から山梨へ酒石の結晶体が集められたと言います。



Q 山梨で干柿のことを「ころ柿」というのはなぜ?

A 『甲斐路ふるさとの特産』(山梨日日新聞社1983年)といった山梨県関係資料だけでなく、『日本料理由来事典』上巻(同朋舎出版 1990年)などの一般資料にも「ころ柿」について載っていました。形が丸いからという説、皮をむいた柿を乾燥させる時に適当な間隔をおいてコロコロ位置を変えることから「転(ころ)ばし柿」→「ころ柿」となったという説などがあります。

(調査サービス担当 大平)



テーマ展示の報告

きのこを食べよう

令和3年6月15日(火)～6月30日(水)

毎年6月は「食育月間」。食育をテーマに山梨県県民安全協働課とコラボレートした展示を行いました。

特に今回は「きのこ」をクローズアップ! 安心安全なおいしい県産きのこに注目してもらおうと、たくさんの“きのこ本”を取り揃えました。4月に図書館1階にオープンした「図書カフェby白州・山の水農場」さんにもご協力いただき、きのこを使ったレシピも配布。光IDシステムを利用して、カフェの「キノコブレンドコーヒー」などの割引クーポンを取得できるサービスも好評で、多くの皆様にきのこの魅力を知っていただきました。

(調査サービス担当 高木)



『きのこのき』新井文彦/文一総合出版

きのこの教科書

『きのこの教科書 観察と種同定の入門』佐久間大輔/山と溪谷社



配布したレシピで職員が作ったきくらげのペペロンチーノ。

店頭では毎日たくさんのきのこを販売。

この本が好き!

図書館スタッフおすすめの1冊

『西の魔女が死んだ』

梨木香歩 著
新潮文庫



株式会社SPSやまなし
(山梨県立図書館指定管理)
富永健 支配人



不登校の中学1年生、まいが西の魔女(おばあちゃん)のもとで過ごしたひと月を綴った物語。まいは次第に“楽しく生きる力”を取り戻していく。

西の魔女からの優しい魔女修行

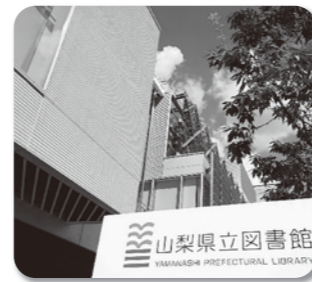
友人からお薦めの本があると紹介されたのが、この本でした。児童向け作品のため、初めは大人になってから読むことに抵抗がありましたが、読み始めると、学校に行けなくなってしまった主人公「まい」が、西の魔女と呼んでいる大好きなおばあちゃんから自然に溢れた環境の中で「魔女」修行を受けながら、他者との繋がりの大切さに気づき、自分の居場所を見つけ成長していく姿に勇気と感動を覚える温かい物語でした。大人から子供まで幅広い年齢層の方に読んでいただける作品だと思います。山梨県北杜市で撮影された映画にもなっており、お薦めです。

県図書TOPICS

TOPIC1

新委員による山梨県立図書館協議会

令和5年1月31日までを任期とする新委員による第1回の山梨県図書館協議会が2月18日に開催され、新しいサービスやコロナ禍後の図書館運営などについて議論を交わしていただきました。今後も実施事業へのご意見や評価、これからの図書館の在り方について様々な視点からご検討いただきます。



(司書幹 千野)

TOPIC2

「かいぶらりシチズンカレッジ」を開講いたしました

今年度より、県民の皆様の生活に役立つイベントや知的好奇心を刺激するイベントとして、「かいぶらりシチズンカレッジ」を開講しました。第1回は山梨県県民生活センターから講師をお招きし、『消費者セミナー～消費者センスを高めよう～』を開催しました。



(企画振興担当 小笠原)

TOPIC3

「子どもの読書オープンカレッジ」を開催しました

山梨大学と共催で毎年開いている講座で、子どもの読書に関心がある人は誰でも参加できます。5月27日は古屋祥子氏に絵本の美術的効果とその魅力について、7月14日には廣瀬通子氏にわらべうたなどの実演とそれを取り入れたおはなし会の作り方を講義していただきました。



(子ども読書推進担当 山田)

TOPIC4

セルフ返却機が導入されました

令和3年2月から、各カウンター横と交流エリア1階(交流ルーム101前)に、セルフ返却機を設置しています。カウンターが混んでいるときでも、ポストのように投入口から一冊ずつ本を入れることで、スムーズに本を返すことができます。ぜひご利用ください。



(情報システム担当 馬淵)